

教 育 委 員 会 だ よ り



華麗な舞を披露し観客を魅了

この芸能発表会は女性同士の親睦を深めるという目的で昭和55年から開催されているもので、今年で35回目を迎えました。

心をこめて35年の感謝！

第35回 母さんの手作り芸能発表会開催

2月15日、ジョイ・じょぐら天の川ホールを会場に女性団体連絡協議会主催の「母さんの手作り芸能発表会」が開催されました。



第1回目の幕開けを飾った「青い山脈」を来場者全員で合唱

上ノ国の冬の風物詩ともなったこの発表会ですが、「心をこめて35年の感謝！思い出をありがとう」と銘を打ち、今回で一区切りとすることとなりました。

この日はやや肌寒いながらも町民やせたな町女性会54名を含むおよそ400名が来場しました。

開幕は上ノ国音頭で華々しく飾り、その後天の川慕情を披露しました。

第1回目から司会を務める石崎の杉田京子さんは巧みな話術で次々と出し物を



来場者一人一人にお礼する古館会長(右)

紹介し観客を魅了していました。

各地区からは趣向を凝らした多彩な演目が披露され、会場は終始笑いに包まれていました。

また「歌の部」では各地区代表の歌手が持ち歌を披露し花束やテープを手に携え心地よく歌っている姿が印象的でした。

全ての演目が終わった後に、女連協の役員がステージに立ち、会場の皆さんと一緒に「青い山脈」を大合唱し、閉幕を惜しみました。

帰りの際には古館丸子会長をはじめ役員が見送りをし、今までご来場してくれた方々への感謝を伝えていました。



研究会での様子

他方、心配な面としては、人間関係をうまく築けない、相手の気持ちを考えることができない

このほど、町内の保育所・小学校連携の研究会が開かれ、全保育所と小学校、保健師や発達支援センター職員35名が参加しました。

良い面だけでなく、心配な面も見える

はじめに保育所からはこの春入学する園児の、また、小学校から昨年入学した児童の特徴と課題についてそれぞれ報告がありました。

その中では、元気な生活の様子かわかるとともに手のかかる実態も見えてきました。

子育ての知恵集める共同を

話題のもう一つは、子どもは社会の中で育つのに、それが弱くなっているのではないかと、言うことでした。同じことが一人で苦勞を背負いがちな親世代にも当てはまるのではないかと、むしろそれが一番の課題であり、克服には、親同士の共同が大切なのだと言うことでした。親にとっては初めての子育てで不安でいっぱいですが、だからこそ知恵の学び合いが大切になっていると言うことでした。

今こそ子育ての共同を
— 保育所・小学校連携研究会開く —

ない、思い通りにならないとすねる、中には、教室にいられない児童のいることなどです。

保育所・小学校の工夫

そこで、保育所、小学校共に、子ども同士と一緒に遊んだり作業したりして相手を待ったり、譲り合ったりできるような場面づくりを力を入れています。例えば、「朝のジャンケン」遊び、「折り紙」や「切り絵」に挑戦するなどです。また、困ったことを言葉で相手に伝えることができるようにと励ましています。

